

○議長（河野） 3番、浜口清海君。

○3番（浜口） はい。3番、浜口清海です。

○議長（河野） 浜口君。

○3番（浜口） はい。

○3番（浜口） 3番、浜口清海です。通告に従い一般質問をいたします。

本町の少子化対策について、質問をさせていただきます。

令和7年も12月を迎え、早くも本年残すところ、20日足らずとなりました。思えば令和7年も色々な事故、事案や現象に遭遇した年となりました。

まず、ひとつには、社会インフラの老朽化による大事故の発生がありました。1月28日埼玉県八潮市で道路の陥没による、2tトラックの転落死亡事故が発生しました。この事故の原因は1983年に設置された下水道管で耐用年数(約40年)を超過していたのが原因とされております。また、沖縄県大宜味村では11月に、ダムから浄水場への導水管が破裂し、那覇市や浦添市など17市町村で断水の可能性が出て、約37万世帯に影響がでる恐れがあり、道路の陥没も確認されました。この導水管の破裂事故も耐用年数(40年)を大幅に約20年超過していました。

今一つは、気候変動に伴う異常気象の発生。私が6月の一般質問で気候変動に伴う「夏の異常高温対策・熱中症対策」を問い、注意喚起・猛暑対策を問いました。が、しかしながら、心配したとおり、特に今年の夏は、過去に記憶のないほどの特別な酷暑続きの夏となり、熱中症患者の大幅な増加、そして、その緊急搬送者の増加となりました。

そして、温暖化の最たる現象として、本年8月5日、群馬県伊勢崎市で観測史上、日本の最高気温41.8度を記録し、更新いたしました。また一方では、国内でも大規模火災が発生しました。岩手県大船渡市、岡山県岡山市、愛媛県今治市で大規模火災が発生し、私は「山火事防止対策」を同じく、6月の一般質問で問いただきました。ところが、山火事だけでなく本年11月18日大分県大分市佐賀関の住宅地にて、187棟が住宅火災の被害を受けました。これらの火災発生の原因は気候変動に伴う異常気象、高温・乾燥・強風が原因といわれております。

また一方では、先日12月8日に、皆様ご存知のとおり、群馬県豊岡市妙義山でも類焼面積30万㎡の大規模火災が発生しました。そしてまた、その翌日12月9日神奈川県伊勢原市と厚木市にまたがる日向山で山火事が発生し、昨日12月11日現在、鎮火のめどはたたず、類焼中であります。私が心配し、警告したとおりの事案が発生し、火災の発生が山火事だけでなく、山から住宅地、そして、廃棄物処分場にも大規模火災が発生しております。解決はなされないばかりか、有効な対策は見当たらず、今後も、大規模火災は発生するし、多発すると思われまます。

これらの事象は、日本は勿論のこと、綾川町を取り巻く大きな問題点であり、解決が急がれる、そして解決がなされるべき事案であります。しかしながら、これらの重大事案より更に重大な、そしてもっと、もっと深刻な事象が厚生労働省から、今年6月に発

表がありました。それは、昨年、令和6年の統計結果として、合計特殊出生率が1.15で過去最低との発表で、出生数も初めて70万人を下回る、戦後最低の少子化が進行していることが確認されました。

過去、色々な高名な学者の方々、与野党を問わず政治家の方々、諸先生方、評論家の方々がその少子化への対策、取るべき施策を論じられておられました。私も「少子化人口減少への対応策」への講習会・勉強会にも参加しました。が、残念なことに、しかしながら先生方が講習会で述べられていても、結果は何ら効果が無いどころか、逆方向に進行しております。先生方の諸説はさすがだなと思われるところも、もちろんありますが「講習会で、尊大なものの言い方で、高い報酬を得て、何をしているのか」と言いたいところです。が、しかしながら、もちろん私は今までは言ったことはありません。

つまるところは、今現在も、当然のことながら、もちろん今後も少子化は進み、人口減少も進んでいきます。

昔、私が学習した「国家滅亡の方策」(戦争や経済封鎖を除きます)、これの具体策として、滅亡させようとするある国の、その国民に対して「勉学をさせない、勤労を侮蔑させる、出産をさせない」、その策謀が、国家滅亡の三大秘策と教わりました。

いま、我が国は、そしてわが国民は国家滅亡に向かって舵を切っているとの、大きな危機感を、私はもっております。そして、その上に、現状のこの少子化という方向性は、他国からの日本国滅亡の謀略で子どもを産ませないようにしている、そうなのでしょうか、否、違います。NOです。我が日本国の国民、勿論大多数ではありませんが、国民自らが子どもを産まないことを選択している、だからこそ私はとても大きな危機感を抱いております。

従来のおりの、少子化対策でいいのでしょうか。今までどおり、政治家、高名な学者さん、テレビに出演する有名評論家さんたちに託し、信頼して任せていいのでしょうか。そうではないと、任せていいはずはないと私は断言いたします。この託した結果が、今現在の、日本の過去最低の出生率ですし、今現在の戦後最低の出生数となったのです。彼らたちに今後の日本国の命運を託していいのでしょうか。絶対にだめです。NOです。彼らたちに我が国の命運を託せば、日本国は必ず滅亡し、破滅します。彼らを信用した結果が、今日、今現在のこの現状を導いたのです。これからは、他人任せではなく、ここにいる我々が、この国難、少子化問題に真剣に取り組み、真剣に考え、真剣に討議を重ね、改善策を模索しなければならないと思っております。

以上これらを踏まえて、町長に問います。本町、綾川町の少子化対策の現状、そして、対応、対策後の効果、結果はどうなっているのでしょうか。その現状をお示してください。

本町として少子化の現状を踏まえての反省点と、今後の具体的な少子化対策、取組、方向性をお示してください。以上です。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

平成 26 年（2014 年）に「地方創生」の取組が始まり、「自然減」「社会減」のそれぞれの要因に対応する施策に取り組み、人口減少対策を進めてまいりましたが、人口減少や東京圏への一極集中などの大きな流れを変えるには至っておりません。

人口減少対策の中でも特に少子化対策は、結婚や出産に対する意識の変化やライフスタイルの多様化など、子育て環境を取り巻く課題は常に変化しており、基礎自治体のみでの対応では限界を感じているところであります。

しかしながら、引き続き人口減少対策の取組を進めるために、令和 7 年 3 月に第 3 期の綾川町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、これまでの「人口を増加させる」という目標から、「人口減少を抑制する」という視点に立ち、4 つの基本目標を掲げ、各種の取組を実施をしております。

議員ご質問の少子化対策は、基本目標の 1 つであります「結婚・出産・子育ての希望が叶うまちへ」の施策の内容になります。

まず、1 点目の「少子化対策の現状及び対策後の効果について」の質問ですが、「出会いと交流の場づくり」として「かがわ縁結び支援センターの登録料の補助」を、また「安心して妊娠・出産ができる環境づくり」として「出産祝い金」などを、さらに、「安心して子育てできる環境づくり」として「土曜保育」「在宅育児応援金」などの事業を実施しており、少子化の根本的な解決には至っておりませんが、県内他の市町と比較しても遜色がない取組を展開をしております。

2 点目の「少子化の現状を踏まえての反省点と今後の具体的な少子化対策について」のご質問であります。冒頭申し上げましたとおり人口減少対策の中でも特に少子化対策は、基礎自治体のみでの対応に限界を感じております。

これまでの取組を継続・拡充しつつ、地方創生が開始されてからの 10 年間の成果と反省を踏まえ、国が本年中に策定するまち・ひと・しごと創生法に規定する「総合戦略」など、国の動向を注視し、人口減少が続く事態を正面から受け止めたうえで、引き続き少子化を含めた人口減少対策に取り組んでまいりたいとそうように考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○3 番（浜口） はい、再質問お願いします。

○議長（河野） 浜口君。

○3 番（浜口） はい。

○3 番（浜口） ご回答ありがとうございます。

町長おっしゃったように、他市町村と比べてはですね、非常に綾川町、健闘しておるというふうに私も思います。しかしながら、人口減少にならない、これ私が言わずと分かっているように、合計特殊出生率 2.07、これがですね、人口が減らない最低限の出産率でございます。これはもう私から言う必要はないと思いますが、だけでもこれには

非常にまだまだの状況だと思います。その2.07に向けて、これは私もですね、案を出しますし、いろいろとご相談申し上げて、この町が消滅しないように、この町が発展するように、四国でも綾川町が一番じゃと言われるような施策を持ってですね、取組をできればと思います。

子育て支援策をですね、各市町村やっております。やっておりますが、いかんせんの数値になってます。私は今現在一番少子化の原因となっておりますのは、これ綾川町の統計言います。1990年、平成2年。未婚率、男性48.5%、女性が20.1%です。それが30年後、2020年、令和2年。男性57.7%、女性が46.7%。これ、町のあれですからご存じだと思っただけですけども、2.3倍になってます。このように女性が結婚をしない、女性が結婚したくない理由があると思います。このあたり研究をしながら一緒に問題解決になればと思っ、再質問をさせていただきました。以上です。

○総務課長（福家） はい、議長。

○議長（河野） 福家総務課長。

○総務課長（福家） 浜口議員の再質問にお答えをいたします。

現在ですね、町長の答弁でもありましたとおり、現在第3期のまち・ひと・しごと創生総合戦略を立ててやっております。ここの中でですね、浜口議員が言われた2.07って数字は人口置換水準と申しまして、ご存じのとおり、その水準があれば人口は減らないという水準なんですけど、ここ私ども3期を策定するにあたりまして、この水準については無理だろうというところになりまして、今現在、合計特殊出生率は1.8を目標にしております。これを踏まえた上でお話をさせていただきますと、当然ながら1.8になったら人口は減少しますが、これについては減少するスピードを緩やかにするという目標に立って行っております。

当然ながら、結婚して出産されて、子どもの数が増えるのが一番理想です。そのためにはですね、町だけではなくて、国の施策も一体的に、一緒にやっっていけないといけないという認識でありますので、これは国の施策の動向とか見ながら綾川町に合った施策の方を速やかに実施できるように、担当課が連携してやっっていきたいと思っております。

以上答弁といたします。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○3番（浜口） はい。

○議長（河野） 浜口君。

○3番（浜口） はい。

○3番（浜口） これ最後に、再々質問というよりも、要望と決意ですけども、これを述べたいと思います。この少子化、人口減少という問題は思想、信条、信仰の枠と垣根を取り払い、立ち向かわなければならぬほど大きな国難であり、大きな難題だと私は考えております。

最後になりましたが、私、浜口清海も日本国のため、綾川町のため、働いて働いて働

いて働いて、働い抜いて、この国難に立ち向かうことをお誓い申し上げ、一般質問とさせていただきます。

以上でございます。

○議長（河野） 以上で、浜口君の一般質問を終わります。